

アンネのバラ栽培マニュアル



東京都杉並区立高井戸中学校
アンネのバラ委員会
マニュアル編集委員会

栽培内容目次

1 水やり	p. 19
2 花が咲き終わった後の花がらきり	p. 20
3 病害虫について	p. 21
4 肥料	p. 21
5 挿し木の仕方	p. 22
6 土	p. 22
7 バラの植え替え（1月～2月）	p. 22
8 アンネのバラの年間手入れ	p. 23



【1 水やり】

アンネのバラには、ほかの植物と同様に水やりが欠かせません。

その時の土の状態を見ながら水やりを行ってください。

ポイント：バラの光合成の活動は9時頃にピークを迎え、その後下がっていきます。光合成に欠かせないのが水ですので、無理のない範囲でなるべく午前中に与えるようにします。

※注意事項※

- 時間帯は午前9時～11時が理想です。
- 特に夏場はホース内の水温に注意して、水温が高い場合はしばらく水を流して水温が低くなってから水をまくようにしましょう。
- 夕方から夜にかけては水やりをすると病気が出やすくなります。
- 水のやりすぎは根腐れなどの原因になります。
- 水は花にはかけずに、根元にかけます。
泥はね注意：水流の強さに気をつけて泥はねしないようにしましょう。泥がはねると雑菌がついてバラが病気になる場合があります。
- 水浸しの状態が続かないように、表土が乾いたら、水をしっかりと与えましょう。完全に乾ききるのは根にとってダメージが大きいのので、「軽めの乾燥とたっぷりの水やり」を繰り返すことで根が張っていきます。

新しい苗の場合

植えつけ後2か月くらいは、3日に1回程度、1株につき1分くらいホースで水やりするのが理想です。

ホースでなければ、バケツ1杯（20ℓくらい）。その後は、段々減らしていき、6-7月頃には、他の株と同等の水やりでいいような状態にまでもっていけると理想です。

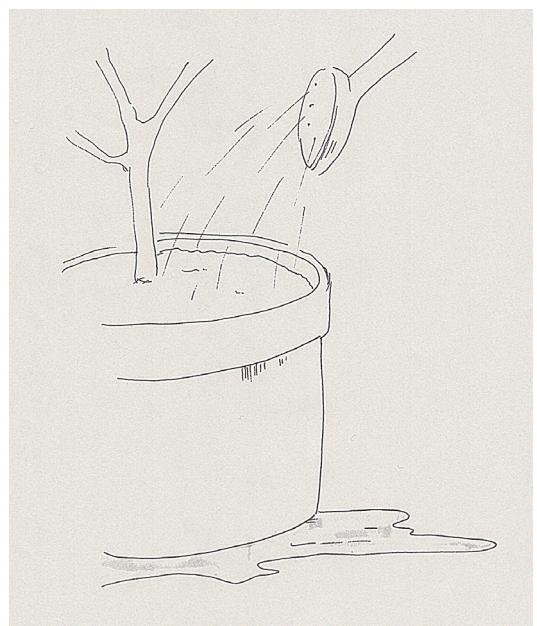
雨の時期はやらなくても大丈夫ですが、晴天の日が10日間以上続くときにはしっかりと水やりをしましょう。

★花壇の水やり



地中に水が十分に吸収されるまでたっぷりと水を与えた場合、根はしっかりと張る。

★鉢植えの水やり



鉢植えの水やりは、表面が乾くのを待って、鉢底から水が勢いよく流れ出るまで、たっぷりとやる。

【2 花が咲き終わった後の花がら切り】

花が咲き終わった後、次の花枝を育てるために花がら切りを行います。

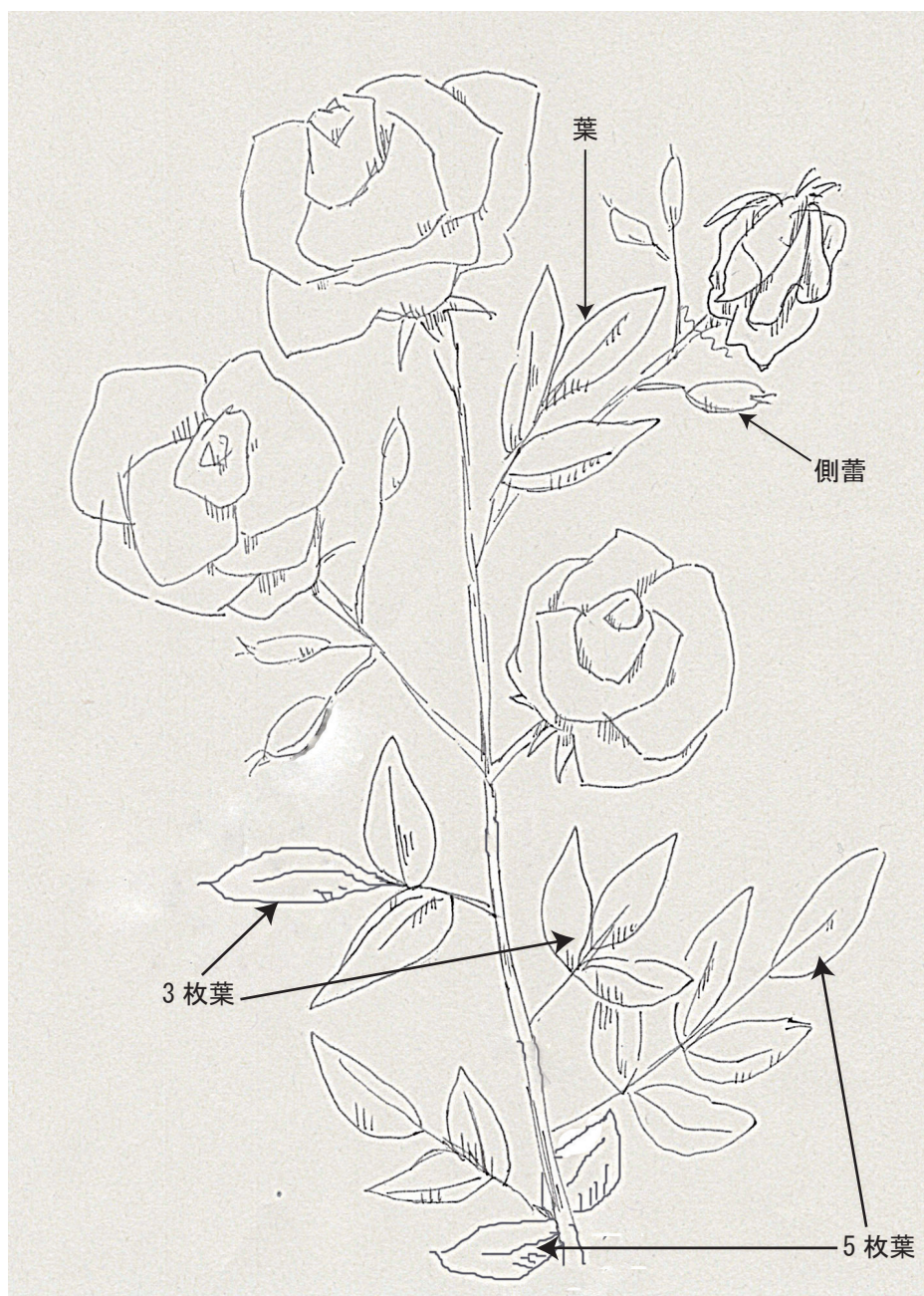
★花がら切りの仕方★

● 花の咲いた枝の真ん中～少し下あたりの5枚葉の上で切ります。

● 切るときは5枚葉の上部5～8mmのところを芽の角度と合わせて切ります

※稀に3枚葉しかついていない枝がありますが、肉厚で充実した葉を選んで、その上で切ります。

※下の葉の付け根からすでに次の芽が出ている場合は、その枝を生かして上で剪定します。



さし絵：美術部生徒作品

【3 病害虫について】

本来は未然に防ぐべきものですが、様々な病害虫が発生することがあります。

● うどん粉病

風によって運ばれる伝染病で最初は葉の表面にわずかな隆起ができます。進行すると、葉の表面が白い粉をふいた状態になります。5月から7月、10月から11月に主に発生。雨が続くと発生しやすくなります。

～対処方法～

必要に応じて薬剤や米ぬかで治療を行ったりします。

ポイント：人間にとって快適と感じる時期、開花の時期に発生します。

● 黒点病

葉に黒い点が現れ、黄色に変色し始めて、落葉してしまいます。

～対処方法～

この病気は治らないので、発病した葉はすぐに手で取り、地面に落ちた葉も伝染防止のために拾っておきます。病気が広がらないように必要に応じて薬剤を散布します。

● 害虫

アブラムシやカイガラムシ、ゾウリムシ、ケムシなどを見つけたら、手で捕獲して下さい。

【4 肥料】

①肥料はアンネのバラがきれいに咲くには必要不可欠なものです。適正な量を適正な時期に与えます。

これはバラを新しく植えたとき、あるいはすでに育っているバラには冬と夏の年2回行う作業です。冬は基礎体力をつけ、夏は秋のバラを咲かせるための大切な栄養源となります。

寒肥・・・1月 株の周り2-3か所に穴を掘って（つまり、根を切ること）、堆肥（腐葉土や完熟牛糞など）と肥料（油かす、骨粉、草木灰または市販の肥料）を入れ、埋め戻します。堆肥を入れた穴に希釈した液体肥料で水やりすると、より良いでしょう。

※液体肥料：高井戸中学校では「菌の墨汁」を使用

春の花後のお礼肥・・・5月の開花が終了したら、お礼肥を与えましょう。成長期である夏の成育を促します。

株周り2-3箇所に軽く穴を掘り、肥料を適量与えましょう。通常の水やりに加え、液体肥料での水やりを2週間に1回行うと、病気予防にもなります。

※夏の間（7-8月）は蕾が見えたら摘蕾を続けてください。

新しいシュートが出やすくなり、秋の花のための体力を蓄えられます。

9月

秋の花のための「夏剪定」を9月中旬に行ったのち、肥料を適量与えましょう。

②堆肥は様々なものが出回っています。

株の周りに市販の堆肥（バラの堆肥など）や手作りの堆肥を敷き詰めます。

そこに、上記の液体肥料を与えると、ダブル効果で良い菌が増えていき、土も豊かになり、病気予防の効果も上がります。液体肥料を使ってみて、それだけで十分だったら、このバラ用の堆肥は購入しなくても構いません。

【5 挿し木の仕方】

挿し木は、雑菌の少ない赤玉土や鹿沼土を入れたポットやプランターに、3つぐらい芽（葉）がついた12～15センチメートルくらいの枝をさして、日当たりのいい場所において毎日水をやってください。時期は寒い時期（1～2月）がいいようですが、夏以外なら、割と根付くようです。

新しい葉が出てきたら根付いた証拠です。根付いたら、バラ用の培養土を入れた鉢に植え替えます。植え替えは寒い時期（1～2月）が適しています。

【6 土】

本数が少ない場合の土はバラ用のブレンドされた土を利用すると便利です。

落ち葉を利用した腐葉土を使用するときは、完熟したものを選んで下さい。

【7 バラの植え替え（1月～2月）】

アンネのバラの寿命は15～16年と言われています。弱り切った株は新しい株に植え替える必要があります。今植えてある弱った株は掘り起し、土をなるべく大きく入れ替えます。理想は1m×1mを新しい培養土にすることですが、出来る範囲で構いません。

《弱ったバラの植え替え手順》

①弱った株を掘り起こす。

②その株の周りの土を大きく掘り起こす。

③その穴に、新たに培養土（ブレンドされた一般販売されているものでOK）を入れておく。

※①～③は、花の時期が終わった12月くらいに植え替える日より前にすませておく。

④代替の株を植え付け、しっかり水やりをする。

代替の株の根が展開するように、植えつけ後2か月くらいは、3日に1回程度、1株につき1分くらいホースで水やりします。ホースでなければ、バケツ1杯（20ℓくらい）その後は、段々減らしていったら、6-7月頃には、他の株と同等の水やりでいいような状態にまでもっていけると理想です。

植えつけ後1週間ほど経過したら、1回目の施肥をし、そのあとは、他の株と同じで良いです。

【8 断根】

1、2月の頃、木の幹の回りから30cm位、離れた根を断根し、その空間に1年間木の回りに置いた木片（バーク）を埋めると、新たに出る新根に酸素を供給する層になります。（断根は、2～3年で幹回りを1周するようにするといいです。）



【アンネのバラの年間手入れ（水やり、剪定、肥料等）】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育状態	休眠期				開花		2番花	花休み		秋花開花		休眠期
植えつけ	大苗植え付け・植え替え (根鉢を崩し、土を落とし、根をほぐす)											
	新苗植え付け (根鉢を崩さない)											
水やり	休眠期以外は、「根鉢を崩さない」で植えつける。そうすれば、地植えにしても、鉢増してもOK											
	雨天なら毎日(朝と夕)											
肥料	鉢植えの表面が乾いたら与える											
	鉢植えの表面が乾いたら与える											
剪定・整	寒肥を施す(1回のみ)											
	夏剪定後施肥											
病害虫防	花後、お礼肥。追肥を一ヶ月に1回											
	秋花後追肥											
その他	冬剪定 (2月中旬までに終わらせる。)											
	花後の整枝 (つぼみ摘み)											
その他	花後の整枝 (花がら切り)											
	夏剪定											
その他	花後の整枝 (花がら切り)											
	新芽が10cmほど伸びた頃から黒点病・ウドン粉病・害虫駆除は必要に応じて											
その他	殺菌・殺虫は必要に応じて											
	殺菌・殺虫は必要に応じて											
その他	断根											
	※ シュート発生(8月末まではピンチを続ける。)											